

## アレキシサイミア空間

— 異常心理学のひとつの観点として —

後藤 和 史<sup>1</sup>

キーワード：アレキシサイミア，解離性体験，虐待

空想性の個人差である空想傾向 (fantasy proneness) をめぐる異常心理学的研究は Rhue & Lynn (1987) や Rauschenberger & Lynn (1995) など数多く行われており，主に空想傾向の高さと解離との関連が見出されている。

逆に，空想性の低さに着目した異常心理学的概念にアレキシサイミア (alexithymia; Sifneos, 1973) がある。本稿では，このアレキシサイミア概念と筆者らの研究を紹介する。さらに，アレキシサイミアの2次元空間プロットを用いて感情性と空想性とを同時に検討することが，空想・想像性にまつわる異常心理学的研究に新たな視点を与える可能性について議論する。

### アレキシサイミアとは

Nemiah & Sifneos (1970) は，心身症患者の多くに，主観的感情を表現することが困難で，自己内界の変化よりも外的事象を述べる傾向があり，空想力が乏しいという印象を得た。Sifneos (1973) は，このような傾向を心身症と (ヒステリー性の) 神経症を区別する有力な特徴と考え，アレキシサイミアと名づけた。

アレキシサイミアの概念的定義としては，(1) 自分の感情を認識し表現することの困難，(2) 身体的な感覚と情緒的喚起を区別することの困難，(3) 空想力 (想像力) の貧困さ，(4) 表層的で機械的な思考スタイル，が挙げられる (Nemiah, 1977; Lesser, 1981; Taylor, 1984; Lesser, 1985)。

筆者はこれらを統合してアレキシサイミアを「ある個人が (感情や空想といった) 内的体験を (言語などの) 記号を用いて認識したり表現した

りすることが難しい様子」と説明している。また，質問紙尺度によって性格特性的に測定されるような個人差をあらわす場合には「アレキシサイミア傾向」と表している。

もともとアレキシサイミアは心身症患者の心理的特徴を描く目的で導出された概念であったが，近年では，Toronto Alexithymia Scale (TAS; Taylor, Ryan, & Bagby, 1985) やその改訂版 (TAS-20; Bagby, Parker, & Taylor, 1994) などの質問紙尺度が開発されており，それらの知見からアレキシサイミアは心身症患者のみならず他の精神障害や一般人にも存在する人格特性ないしは個人差として見なされている。

### GALEX

筆者ら (後藤・小玉・佐々木, 1999) は，アレキシサイミア傾向を測定する自記式質問紙 (Gotow Alexithymia Questionnaire; GALEX) を独自に作成し，探索的因子分析により2因子モデル (「感情認識言語化困難」「空想・内省困難」と，4因子モデル (「感情認識困難」「感情言語化困難」「表層的思考」「非空想傾向」) の双方のモデルが適用可能であることを示した。さらに構造方程式モデリングを用いて，後藤ら (1999) の結果を統合した2上位因子-4下位因子を想定したモデルがもっとも適合度の高いモデルであることを示した (後藤・小玉, 2000; 後藤, 2012)。

GALEX は他の英語版を訳した日本語版と異なり，日本語表現としての自然さとわかりやすさに重点を置いた項目表現となっており，回答しやすいのが長所といえる。また，ペーパー式のみならず，コンピュータ上で回答可能なバージョンもあ

<sup>1</sup> 愛知みずほ大学人間科学部

り (GALEX-CBT; 城田, 2007), 状況に応じて使い分けることができることも利点といえよう。

筆者は主に上位因子分析の結果を踏まえた2つの上位因子を用いて調査研究を行っているが, 感情性の問題である「感情認識言語化困難」と, 空想性の問題である「空想・内省困難」とが異なった機能を持つことを明らかにしている。

「感情認識言語化困難」については, 機能的には, ポジティブ感情理解は制止されるがネガティブ感情理解を促進されること (後藤, 2002), ストレッサーをより脅威的に認知しストレス反応が強くなること (後藤, 2007) が示唆され, 精神病的には, 抑うつ (後藤・小玉, 1999), 境界性パーソナリティおよび自傷行為 (後藤, 2008) との間に正の関連・影響が示唆されている。

一方「空想・内省困難」については, 感情価に関わらず自己の感情理解が制止されること (後藤, 2002), ストレッサー対処過程において問題解決的・情動的対処行動を制止し回避的対処行動を促進すること (後藤, 2007), 内的・外的な自己に対して注意が向かないこと (後藤・小玉, 1999), 夢見体験を言語化・物語化するのが難しいこと (後藤・小玉, 2000), 自己概念記述課題での外れな反応をすること (後藤, 2005) を明らかにしている。

このように「感情認識言語化困難」は過度のストレス知覚とストレス反応・精神症状の強さと関連しており, 「空想・内省困難」は心理臨床的介入に対する反応性の悪さを示唆している。

### アレキシサイミア空間

アレキシサイミア傾向が2つの側面から構成されると示唆されたことは, アレキシサイミア傾向という障害的な問題のスペクトラム的析出だけでなく, 2次元空間プロットを用いた「アレキシサイミア空間」という観点を提供できる可能性を生み出す。これによって, ある異常心理学的概念がアレキシサイミア傾向とどの程度関連しているか, といった検討課題のみならず, 感情性と空想性の異常を総合して俯瞰的に検討することが可能となると期待される。

ここで Figure 1 にアレキシサイミア空間の模式図を示した。「感情認識言語化困難」と「空想・内省困難」の双方が高い第1象限 (右上) が「アレキシサイミア」を示している。また「感情認識言語化困難」が高いが「空想・内省困難」が低い第4象限 (右下) を「ヒステリー」として示すことができる。

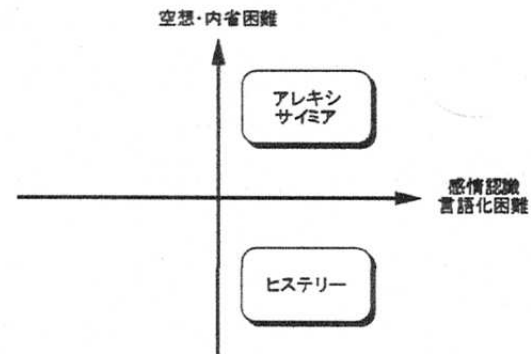


Figure 1 Alexithymia space

例として, 質問紙調査によってアレキシサイミア傾向と解離系諸概念との関連を検討した後藤・小澤・田辺 (2010) および虐待的生育歴との関連を検討した後藤・田辺・小澤 (2012) の分析結果をアレキシサイミア空間に図示することとする。

Figure 2 は, 解離系諸概念 (精神表現性解離・身体表現性解離・離人体験) の相関係数をベクトル表現したものであるが, 3概念とも第4象限の「ヒステリー」にベクトルが向いていることが見てとれる。このようにヒステリー概念を端とする解離系諸概念が第4象限へ布置されたことは, この象限を「ヒステリー」と命名する妥当性が担保されるだろう。

また Figure 3 は, 虐待的生育歴について分類された3つのクラスター (非虐待群・虐待的養育群・性的虐待群) の重心を空間布置したものであるが, 非虐待群と虐待的養育群とが「感情認識言語化困難」の高低によって理解されるのに対して, 性的虐待群の「感情認識言語化困難」が高いことに加えて「空想・内省困難」が低いことによって第4象限の「ヒステリー」に布置されるのを見てとれる。このことから性的虐待が感情性と空想性の異

常を重複的に引き起こす可能性が示唆される。

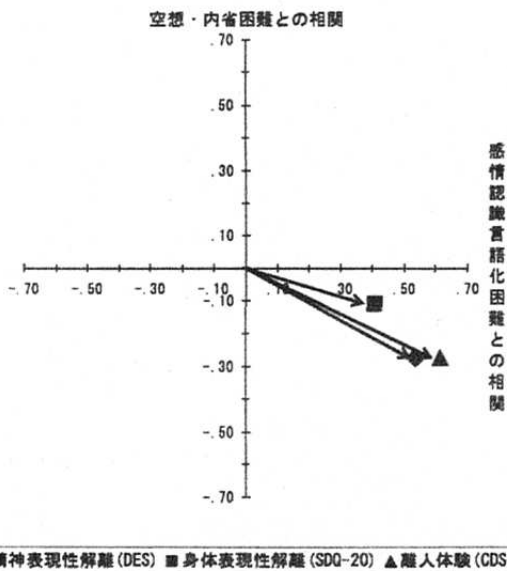


Figure 2 Dissociation in alexithymia space

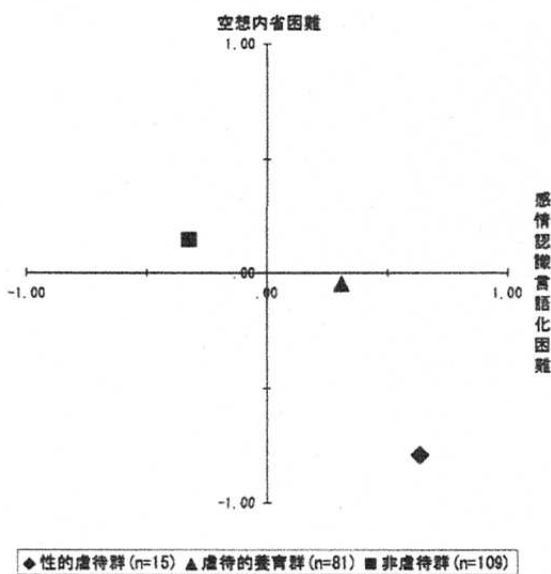


Figure 3 Maltreatment in alexithymia space

### まとめ～イメージ研究への提言

以上のように、空想性と感情性の個人差を布置する「アレキシサイミア空間」は、解離をはじめとする空想体験やイメージ体験の（さらには現実体験の）異常として記述されるタイプの異常心理学的概念を検討するのに有用な観点が提供できるのではないかと期待される。

### 引用文献

Bagby, R.M., Parker, J.D.A., & Taylor, G.J. (1994).

The twenty-item Toronto Alexithymia Scale-I. Item selection and cross-validation of the factor structure. *Journal of Psychosomatic Research*, 38, 23-32.

後藤和史・小玉正博・佐々木雄二 (1999). アレキシサイミアは一次元的特性なのか?—2因子モデルアレキシサイミア質問紙の作成—筑波大学心理学研究, 21, 163-171.

後藤和史・小玉正博 (1999). アレキシサイミア傾向と自己意識特性・抑うつ傾向との関連. 日本健康心理学会第12回大会発表論文集, 258-259.

後藤和史・小玉正博 (2000). アレキシサイミア傾向の因子分析的諸モデルの比較. 日本心理学会第64回大会発表論文集, 911.

後藤和史 (2002). アレキシサイミア傾向が自己の感情の理解に与える影響. 日本心理学会第66回大会発表論文集, 848.

後藤和史 (2005). アレキシサイミア傾向が自己概念記述課題に与える影響. 日本心理学会第69回大会発表論文集, 989.

後藤和史 (2007). アレキシサイミア傾向がストレス評価・コーピング行動・ストレス反応に与える影響. 日本心理学会第71回大会発表論文集, 888.

後藤和史 (2008). アレキシサイミア傾向が自傷行為に与える影響—境界性パーソナリティを考慮して—. 日本心理学会第72回大会発表論文集, 1016.

後藤和史・小澤幸世・田辺肇 (2010). アレキシサイミア傾向と解離系諸概念との関連. 日本心理学会第74回大会発表論文集 CD-ROM.

後藤和史 (2012). アレキシサイミア傾向の因子分析諸モデルの比較. 瀬木学園紀要, 6, 68-70.

後藤和史・田辺肇・小澤幸世 (2012). 虐待的生育歴がアレキシサイミア傾向に与える影響. 第11回トラウマティックストレス学会プログラム・抄録集, 82.

- Lesser, I.M. (1981). A review of the alexithymia concept. *Psychosomatic Medicine*, 43, 531-543.
- Lesser, I.M. (1985). Current concepts in psychiatry: alexithymia. *The New England Journal of Medicine*, 312, 690-692.
- Nemiah, J.C. (1977). Alexithymia. Theoretical consideration. *Psychotherapy and Psychosomatics*, 28, 199-206.
- Nemiah, J.C., & Sifneos, P.E. (1970). Psychosomatic illness: a problem in communication. *Psychotherapy and Psychosomatics*, 18, 154-160.
- Rauschenberger, S.L., & Lynn, S.J. (1995). Fantasy proneness, DSM-III-R axis I psychopathology, and dissociation. *Journal of Abnormal Psychology*, 104, 373-380.
- Rhue, J.W., & Lynn, S.J. (1987). Fantasy proneness and psychopathology. *Journal of Personality and Social Psychology*, 53, 327-336.
- Sifneos, P.E. (1973). The prevalence of 'alexithymic' characteristics in psychosomatic patients. *Psychotherapy and Psychosomatics*, 22, 255-262.
- 城田和明 (2007). Gotow Alexithymia Questionnaire のコンピュータ式テストの開発 — CBT 版 GALEX マニュアル 江戸川学園人間科学研究所紀要, 23, 47-60.
- Taylor, G.J. (1984). Alexithymia: concept, measurement, and implications for treatment. *American Journal of Psychiatry*, 141, 725-732.
- Taylor, G.J., Ryan, D., & Bagby, M. (1985). Toward the development of a new self-report alexithymia scale. *Psychotherapy and Psychosomatics*, 44, 191-199.

(2013.5.10 受稿, 2013.6.11 受理)

## *Alexithymia Space: A Perspective of Abnormal Psychology*

KAZUFUMI GOTOW (AICHI MIZUHO COLLEGE)

THE JAPANESE JOURNAL OF MENTAL IMAGERY, 2012, 10, 55-58

This article introduced a construct of alexithymia as difficulties of emotional and imaginary activity, Gotow Alexithymia Questionnaire (GALEX) which measures alexithymic tendency, and psychological studies using GALEX. Furthermore, proposing "alexithymia space" as a perspective of abnormal psychology, its availability was discussed.

**Key words:** alexithymia, dissociative experience, maltreatment